

三小だより 7月号



「いがいが言葉」と「あったか言葉」

校長 寺下 憲志

全員が一斉に毎日登校、給食もスタートし、感染リスクを減らすための取組みは必要であるものの、ようやく学校が本来の姿を取り戻しつつあります。保護者の皆様には学校の様子を少しでもご覧いただけるように、子どもたちの様子を学校ホームページで紹介するようにしています。おかげさまで、過去最高のアクセス数となり、授業参観や学校行事が制限されている中、できる限り更新していくつもりです。

先日、そのホームページに載せる写真を撮るため、私がカメラ片手に校内を回っていると、3年生の教室で一人の児童が「校長先生、僕がなぜ、画用紙に水を塗っているか、わかりますか？」と話しかけてきました。

「うーん、わからなあ。何でかな？」と問いかけると、その児童は「こうやって先に水を塗っておくと、後から色をつけたとき、うまくムらができて、きれいに見えるから。」と説明してくれました。なるほど、確かにきれいに塗られていて、その技法の素晴らしさとともに、言葉使いの丁寧さに感心しました。

赴任して3か月、毎日のように教室に行く私に、子どもたちも少しずつ話しかけてくるようになり、4年生までの児童は「校長先生、写真とって」、「鉄棒（縄跳び）するから見てて」など積極的で、「校長先生、これ見て、何やと思う？」と粘土細工をみせられ、「うーん？」と返答に苦慮するようなこともありました。

さすがに高学年は、朝の「おはようございます」や下校時の「さようなら」程度になるのですが、それでも私から「これは何をしているの？」と問いかけると「漢字のテストがあるので、その勉強です」などマスク越しの小さな声ではあるものの、コミュニケーションをとることができるようになってきました。

これからの社会を生き抜く子どもたちにとって、コミュニケーション能力は不可欠です。しかもそれは自分の思いを一方向的に伝えるのではなく、相手のことを考え、状況に応じた言葉や表現をすることが大切です。

そこで、南第三小学校では「いがいが言葉」と「あったか言葉」という言い方で子どもたちに考えさせています。

「いがいが言葉」・・・どげや、やめろや、うっとおしい など

「あったか言葉」・・・どいてね、やめてね、ありがとう、うれしいな など

休み時間や授業中の様子を見ていると、「いがいが言葉」から始まり、時にはけんかや相手をたたいてしまうなど、トラブルが起きることもあります。学校では「いがいが言葉」が出てきたら、「その言い方より、この表現がいいよ」と言い換えながら、少しずつ減らしていこうと考えています。

もちろん、人権上、どうしても許せない表現は厳しく指導しますが、発達段階に応じた取組みを進めていきたいと考えています。

と、学校だよりを書く内容を考えてながら私が校舎内を歩いていると、学童のお迎えに来られた保護者と出会い、児童が「校長先生、バイバイ！」と私に手を振りました。私も「さようなら」と言いながら手を振り返っていると、その保護者が「校長先生、さようならっていうんやで」とバイバイを言い換えて、お話しされていました。学校と家庭が一緒になって子どもたちの将来のため、協力していきましょう。よろしく願います。